

地質情報管理士資格検定試験に合格して

株式会社日さく 峯浦 康平



(1) はじめに

このたび、令和6年度「地質情報管理士」資格検定試験を受験し、合格しました。受験にあたっての取組内容について、僭越ながら以下に記述させていただきます。

(2) 受験の動機

私は、官公庁発注の地下水調査業務や地質調査業務を主に担当しています。普段の業務では、公開されている地質情報の収集を行い、条件に合わせて二次利用を行っています。また、現場で取得した地質情報を整理し、成果品として納品しています。これらの一連のプロセスは、情報処理と情報管理の能力、品質管理能力が求められます。

そこで、これまでの経験と知識を改めて整理・確認するとともに、さらに向上させることを目的に受験したいと考えました。

(3) 試験対策

受験の準備として、過年度の「受験の手引き」と「試験対策用テキスト」、「過去問題」を確認し、大まかな出題内容を確認しました。

以下に、試験対策として取り組んだ具体例を挙げます。

① 四肢択一問題の対策

過去問題を複数年分解き、学習前の時点における点数を確認しました。あわせて、自信を持って解答できる項目と、そうでない項目、全く分からない項目の3つに問題を区分しました。この結果から、重点的に学習するべき分野・項目を抽出しました。

② 試験対策用テキスト

次に試験対策用テキストを読みました。テキストは、ページ数が約140ページ（令和5年版は約240ページ）で構成されています。まとめて読むと時間もかかり、知識も定着しないと考え、タブレット端末にファイルを保存し、いわゆる「スキマ時間」に読むようにしました。たとえば、公共交通機関での移動時間や昼休憩時間等を使いました。とくに、①で確認した苦手分野は繰り返し読みました。

③ 論述問題

試験の第3部にあたる論述問題は、過去問題を確認し、これまで出題されてい

る項目を分類しました。

たとえば、地質情報管理士の役割、電子納品関連、地盤情報検定、GIS、BIM/CIM、オープンデータの利用と注意点、インターネット利用におけるリスクと回避方法等です。これらの項目について、具体例や留意点を含めながら、400字程度で説明できるように整理しました。内容を全て暗記することは難しいと考え、記述する内容のトピックを覚えて、本番で詳述できるように準備しました。

(4) 試験の感想

四肢択一は、設問の半分程度はこれまでの業務で得た知識で解答しました。残りの設問は、テキストで読んだ内容を思い出しながら解答しました。

論述問題は、必須問題の間1は上述の(3)③で用意していた内容を記述しました。一方、問2（事前協議チェックシートに関する問題）は用意していた内容ではなかったため困惑しました。以前、業務で作成した事前協議チェックシートの内容を記憶から絞り出し、記述しました。この設問に関しては、業務経験が活きたと思います。選択問題は、予め記述内容を用意していた問3-1（電子納品のチェック方法）を選択しました。

論述問題を解答する際には、読みやすくなるように心がけました。表題の文字は大きく、濃く、下線を引いたり、各項目が同程度の行数になるよう調整し、一文一意となるように工夫しました。記述後は、選択した問番号も漏れなく書いているか確認しました。

全体を通して、準備した内容で一通り対策できていたという印象です。普段の業務への取組姿勢も非常に重要だと感じました。一方で、四肢択一と論述問題含めて、準備不足・知識不足で明確に答えられない問題もありました。とくに、「土木工事・業務の情報共有システム活用ガイドライン」に関する事など、最新の情報も含めて、習得できていない問題を改めて認識しました。

(5) 合格を受けて

業務対応や他の試験対策も進めながら準備することは大変でした。合格発表では、自分の受験番号が記載されており、安心しました。

これから受験される方に、私の体験記が少しでも参考になれば幸いです。